



# 小杉小二郎 —窓辺物語—

2016年10月8日(土)～11月27日(日)

休館日：毎週月曜日(祝日・振替休日のときは開館し、その翌日を休館)  
開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
入館料：一般720(640)円、大学生510(460)円、高校生以下は無料  
( )内は20名以上の団体割引料金

※会期中、10月31日に大幅な展示替えを行います。

主催：公益財団法人小杉放菴記念日光美術館／日光市／日光市教育委員会  
共催：諏訪市美術館 協力：丸沼芸術の森 後援：協同組合銀座百店会

〒321-1431 栃木県日光市山内2388-3 telephone: 0288-50-1200 <http://www.khmoan.jp>





このたび、小杉放菴記念日光美術館は10年ぶりに、洋画家・小杉小二郎氏の展覧会を開催いたします。

小杉小二郎氏は、1944（昭和19）年に、当時の東京都滝野川区（現在の東京都北区）で生まれました。父は會津八一の門下で、東洋美術の研究者であった小杉一雄。そして、祖父は画家・小杉放菴です。また、叔父には日本のインダストリアル・デザインの分野で草分けとして知られる小杉二郎がいました。

高校生になったとき、工業デザインに興味を持つようになり、叔父が教えていた、日本大学芸術学部工業デザイン科に進学。一旦はデザイナーとして就職しますが、中川一政の絵を見て画家になることを決意し、1968（昭和43）年から中川一政のアトリエに通うようになります。

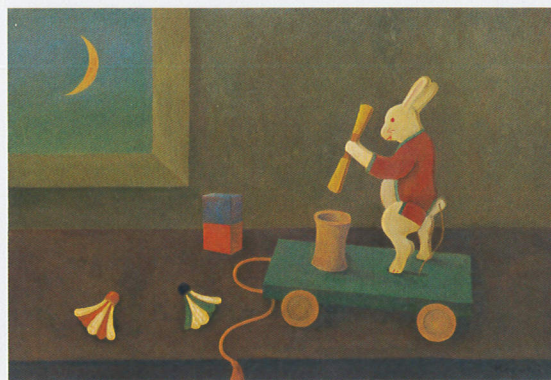
1970（昭和45）年にはフランスへ渡り、モンパルナスのグランド・ショーミエール研究所に通ってデッサンを学びました。そして、1972年に、細密描写の画家として高い評価を受けていた岩田栄吉の知遇を得、絵画の構図と色彩の役割について実地に教わったことで自身の制作にも大きな進展を見せます。

この間、1971（昭和46）年にはサロン・ドートンヌに《静物》を出品し、以降は毎年、出品を続けることになりました。1974（昭和49）年からは2年ごとに個展を開催します。1975（昭和50）年、初めて安井賞展に出品して入選。1981（昭和56）年にはサロン・デ・ボザールでフラマン賞を受賞しました。

1982（昭和57）年に初めての画集を講談社より刊行。1987（昭和62）年には、三浦朱門氏による朝日新聞の連載小説「ささやかな不仕合わせ」の挿絵を半年間にわたって担当しました。近年では、30年以上も拠点としていたフランスを離れて、東京の自宅に本格的なアトリエを構え、古稀を超えた現在も精力的に制作を続けています。

小杉小二郎氏の制作は、静物や風景、動物や家屋や花や玩具を中心としたモチーフの形象を単純化し、繊細な色使いで静寂な画面に、しっとりとした、穏やかな情感と豊かな詩的空間を表現しており、誠に瀟灑な作品といえるでしょう。

今回の展覧会では、油彩画の最新作を中心に、「親指姫」や「桃太郎」をテーマとした物語絵のシリーズや立体のオブジェなどもふくめて、最近の画業を展覧します。



《月とうさぎ》2016（平成28）年、個人蔵



《雪の小樽運河》2016（平成28）年、個人蔵



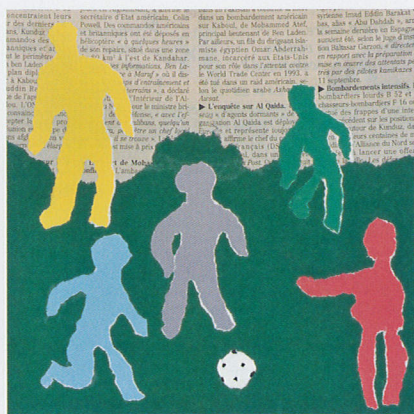
《トスカーナの窓辺》2013（平成25）年、個人蔵



《家族》2014（平成26）年、丸沼芸術の森



【桃太郎】《桃太郎7 雉・猿・犬と桃太郎》2014（平成26）年、丸沼芸術の森



【銀座百点】《銀座百点表紙原画 5月》2002（平成14）年、丸沼芸術の森



【交通案内】

- 東武日光駅、JR日光駅から清滝・細尾・中禅寺・湯元・西参道（東照宮）方面行きバス5分 神橋停留所より徒歩3分
- 日光宇都宮道路・日光インターから約2km

表面：

《回想》2016（平成28）年、個人蔵

《円のコンポジション》2016（平成28）年、個人蔵

イベント ■ 小杉小二郎氏によるギャラリートーク

日 時：2016年10月22日（土）

14時00分から15時00分まで

参加料：美術館の入館料のみで参加いただけます。

事前の申し込みは必要ありません。

参加を希望される方は、当日13時50分までに、

美術館の受付前にお集まりください。